

H30年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金  
 (慢性の痛み政策研究事業)  
 慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究  
 分担研究報告書

痛みセンターの普及に関する研究

|       |        |               |          |    |
|-------|--------|---------------|----------|----|
| 研究分担者 | 八反丸 善康 | 東京慈恵会医科大学附属病院 | ペインクリニック | 助教 |
| 研究協力者 | 濱口 孝幸  | 東京慈恵会医科大学附属病院 | ペインクリニック | 助教 |
| 研究協力者 | 篠原 仁   | 東京慈恵会医科大学附属病院 | ペインクリニック | 助教 |
| 研究協力者 | 上園 晶一  | 東京慈恵会医科大学附属病院 | 麻酔部      | 教授 |

**研究要旨**

平成29年度の活動において、院内に痛みセンターの活動や慢性痛患者に対するアプローチなどの広報活動を行い、各診療科からの紹介患者の増加に結びつけることができました。平成30年度は院内の医療連携室の協力を得て、他施設向けのチラシの作成やモデル事業に港区医師会の後援を得るなど院外に向けての活動を行った。

**A. 研究目的**

当院の新規患者の割合は2016年度までは院外からの紹介患者が多く、院内紹介は少ない状態であった。2017年度から人員が刷新され、外来患者数が減少した。昨年度は院内における慢性疼痛患者に対する診療連携強化に関する活動を行い、院内紹介の増加を認めた。今年度は医療連携室の協力を得て院外における連携強化の活動を行った。

**B. 研究方法**

当院の診療体制を以下に示す。

ペインクリニック専従医3名、麻酔科からのローテーション医師1名で外来診療を行った。コメディカルを含めた外来担当表は下記の通りである。

月曜日：医師4名、鍼灸師1名、理学療法士1名、臨床心理士1名

火曜日：医師2名、鍼灸師1名、理学療法士1名

水曜日：医師2名、鍼灸師2名（午前、午後1名ずつ）

木曜日：医師3名、鍼灸師1名、臨床心理士1名

金曜日：医師3名、鍼灸師2名（午前のみ）  
 理学療法士1名

初診カンファレンス、患者満足度による改善症例と悪化症例のカンファレンスを部署内

で週に1回行っている。

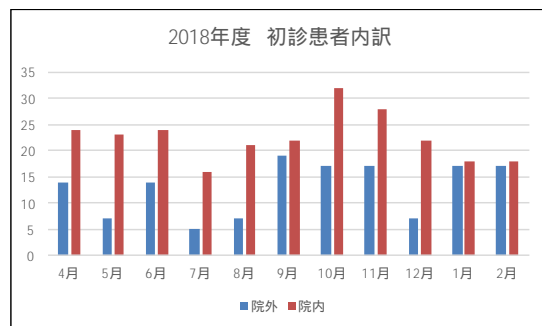
慈恵医大脊椎センター（整形外科、脳神経外科）との週1回のカンファレンスにおいて難治性疼痛患者について症例提示を行い、治療の検討を行った。脊髄刺激療法や硬膜外癒着剥離術の適応症例の紹介なども受けるようになってきている。

モデル事業で慢性疼痛医療連携研修会を行う際には医療連携室を通じて港区医師会の後援を得て、医師会にパンフレットを配布した。医療連携室が作成する医療連携広報誌「つなぐつながる」への寄稿を行い、慈恵医大関連施設への配布を行った。

（倫理面への配慮）

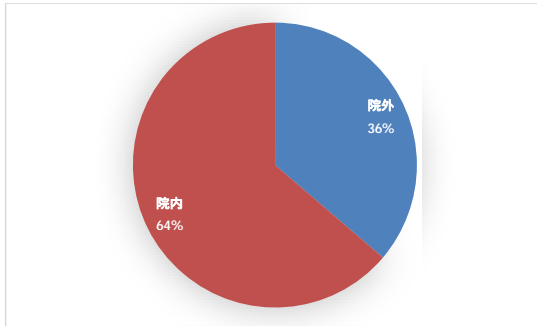
特に無し

**C. 研究結果**

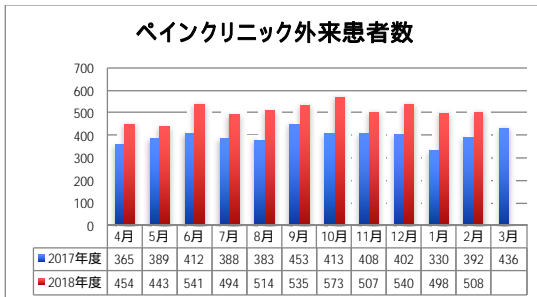


2018年度の初診患者数をグラフで示す。院内紹介患者は昨年度よりも高い人数で推移

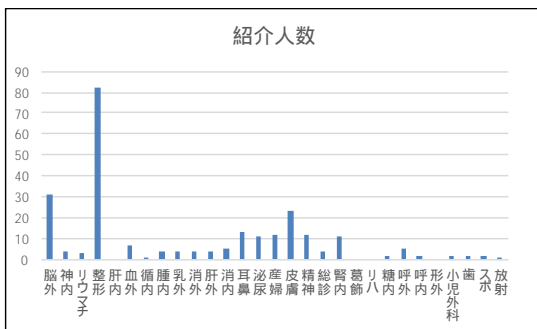
している。院外患者数は年度の後半から徐々に増加している。



紹介患者数は院内からが6割程度を占めている。昨年からの院内連携に取り組んだ成果と考えている。



2018年度外来患者数をグラフで示す。外来患者総数は昨年度より増加している。



各診療科からの紹介人数をグラフで示した。カンファレンスと一緒にしている整形外科、脳神経外科からの紹介患者数が多い。内科からの紹介は少ない。

**D . 考察**

昨年度の院内連携構築の結果、慢性痛患者の紹介は継続してみられるようになった。整形外科、脳神経外科からの紹介患者特に多く、内科からの紹介患者が少ない。今後は内科への広報活動を行い、慢性を有する患者の紹介

を得るようにしていく必要がある。慈恵医大ペインクリニックが痛みセンターとして診療を行っていることを積極的に広報活動することによって院外からの紹介患者数の増加を認めた。今後も医療連携室を通じて関連施設や医師会への広報活動を継続していくことにより、慢性の痛みに対する適切な連携が取る必要がある

**E . 結論**

院外広報活動を積極的に行うことにより院外からの慢性痛患者紹介を増やすことができた。今後も関連施設や医師会などへの広報活動を継続する。

**F . 健康危険情報**

総括研究報告書にまとめて記載。

**G . 研究発表**

1. 論文発表

- 濱口孝幸, 八反丸善康. 慢性群発頭痛が先行した薬物使用過多による頭痛に対しデュロキセチンが有効であった症例. ペインクリニック学会誌. 2018;25:77-80.
- Takayuki Hamaguchi, Makihiko Hirayabashi, Yoshiyasu Hattamaru, Masaki Kitahara. Exacerbation of refractory chronic oral pain due to mild consciousness disorder associated with valproate-induced hyperammonemia: A case report. Anesthesia, Pain & Intensive care. 2018;22:247-250.

2. 学会発表

- 濱口孝幸, 八反丸善康, 他. 薬物使用過多による頭痛に対しデュロキセチンが有効であった2症例. 日本ペインクリニック学会第52回大会. 2018.7, 東京
- 田中厚子, 奥井聖子, 濱口孝幸, 八反丸善康. 術後の創部痛治療中に転倒を契機に転移性悪性腫瘍が見つかった1例. 日本ペインクリニック学会第52回大会. 2018.7, 東京

- 3) 平子雪乃, 濱口孝幸, 篠原仁, 八反丸善康. 痛み恐怖に対する認知行動療法が痛み治療に寄与した慢性腰痛症例. 第 11 回日本運動器疼痛学会. 2018.12, 滋賀
- 4) 中楚友一朗, 濱口孝幸, 篠原仁, 八反丸善康. 食品加工業者に対する慢性痛対策教室の効果. 第 11 回日本運動器疼痛学会. 2018.12, 滋賀

#### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし